人口問題研究（J. of Population Problems）79－3（2023. 9）pp. 226～234

研究活動報告

シンガポール人口学会 2023年 年次大会

シンガポール人口学会が2023年５月11日から12日にかけて，シンガポールにおけるシンガポール国立大学において開催された．シンガポール人口学会は2022年度（2021年３月９日）に「シンガポールとアジアにおける人口研究及び知的交流を促進するための公的な場（national platform）」として設立された新しい学会であり，今回の年次大会は設立後はじめての記念すべき大会となった．2022年は新型コロナウイルスの流行を鑑み開催を見送ったそうだが，本年は完全対面形式で開催された．

大会は学会長（Wei-Jun Jean Yeung 教授）の挨拶に続いて，政治家，人口学者，実務家の３名による３つの基調講演で始められた．すなわち，Indranee Rajah 人口資質大臣の30分に及ぶシンガポール人口の課題と対策，林玲子副所長（アジア人口学会会長）の日本の少子高齢政策（“Balancing Policies on Low Fertility and Ageing — Is Japan a Typical Asian Example?”），Ho Kwon Ping 氏（Basnyan Tree Holdings 会長）の世界的な人口（問題）の将来展望について，三者三様の立場からの基調講演が行われた．今大会では２日の会期中にポスターセッションは設けられず，22の口頭報告セッションにおいて約90の研究報告が行われた．これらのほか，シンガポールにおける高齢者雇用と，高齢社会における高齢者の福祉のためのコミュニティの実験的取り組みに関して２つのシンポジウムが行われた．そして，２日間の学会の最後は Yeung 教授の会長講演（家族の理想についての国際比較研究）で幕を閉じた．また，初日の夜にはシンガポール国立大学同窓会の施設（中華料理レストラン）で着席形式の親睦会が催され，出席者間の親交を深めた．全体を通して，非常に有意義な研究交流の場を成すプログラムであると感じた．

当研究所からは林玲子副所長と菅桂太人口構造研究部室長が対面の学会に参加した．林副所長は冒頭の基調講演を行い，菅は“Ethnic Similarities and Differentials of Fertility Transitions, Below-Replacement Reproductions, and Population Policies in Singapore”（「シンガポールにおける出生力転換，超少子化と人口政策－主要民族の差異と類似性」）について研究報告を行ったほか，民族と人口移動についての口頭セッションの座長を務めた．

シンガポール人口学会は設立から丸二年を過ぎたばかりの新しい学会であり，会員数は137名（一般（学術）会員81名，連携会員31名，学生会員25名）に過ぎない．一方で，学会報告の申込は172件あり，採択はこのうち115件，最終的に89の研究報告のためのセッション・プログラムが組まれ，実際に11ヶ国からの参加があったという．（会員数，参加者数ともに会員総会における総務報告による．）多民族国家シンガポールらしいと感じるが，英語を（公用語の１つとして）用いていることや，マレー半島の先端に位置した地政学的要衝である（G7 先進７ヶ国からは遠いが，人口規模が世界最大の２つの超大国（インド・中国）には近く，中間に位置し，米国に次いで４番目のインドネシアに隣り合う）ことなどは，今後シンガポールが知的交流の要所を成す戦略的に重要な要素であることを体感した学会であった．

（菅　桂太　記）